

群馬県立館林高等特別支援学校 学校評価一覧表(令和7年度版)

(様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等					総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	学校を公開する行事を年間10回以上実施し、参加者の80%以上が本校の教育活動の理解に役立ったと感じている。	教務部 教務運営係	学校ホームページやポスターを活用して公開予定日や学校の取組等を紹介する。地域に学校の様子を発信するため、一般向けの公開も再開する。また、廊下の掲示板を充実させて来校者に学習活動の様子が伝わるようにする。	A	A	A	学校公開および見学会を計11回実施し、参加者の70%以上が、日頃の学習の成果や学習活動の様子の良い機会だったと回答している。来年度もポスターやホームページでの呼びかけを充実させ、校内掲示物の整備を行っていく。	掲示物が見やすく整理され、活動内容が分かりやすい。来場者にだけでなく生徒一人一人に伝わる工夫が感じられる。引き続き推進を図っていただきたい。	中学生や中学校の教員向けの学校見学を充実させ、本校の作業学習をはじめとする本校の特徴を正しく知ってもらう機会を設ける。本校保護者の向けの授業公開の開催日の調整を工夫しながら実施していく。
		学校のホームページを月2回以上更新している。	教務部 情報係	年度当初に、掲載する行事、担当者、掲載日程を決め、予定に沿って更新を行う。	A	A	A	学校ホームページは月に2～3回更新を行った。さらに、「コミュニティ・スクール」のページを充実させ、取り組みについてホームページで公開した。	ホームページの更新が安定しており、学校の活動や生徒の活躍がよく伝わる。継続的な更新によって運営がしかりしているという安心感も与えられている。これをきっかけにコミュニティ・スクールについて認知が広がるとうい。	これからも積極的に更新していくとともに、ホームページの閲覧を促す取り組みの検討、実施を引き続き行っていきたい。
		本校HPやPTA広報「あゆみ」と情報紙「かわら版」を通して、本校生徒の様子が伝えられていると保護者の80%以上が感じている。	渉外部	「かわら版」では、生徒の学校生活の様子が伝わりやすいテーマ設定を行う等、保護者が記事を寄せやすい工夫をする。	A	A	A	100%の保護者が「かわら版」を通して、生徒たちの学校生活の感想や様子が伝えられていると回答した。	写真と文章のバランスがよく、見やすく読みやすくなっている。100%の保護者に伝えられたということは素晴らしい。	個人が特定されないよう顔写真の掲載を控えた。テーマや記事の内容を保護者と教員で相談しながら、より良いものを作成していきたい。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	地域支援部 地域連携係	交流及び共同学習の内容について、80%以上の保護者が理解している。	保護者へ向けて「交流活動通信」を年3～5回発行したり、ホームページや活動内容をまとめた掲示物を校内掲示したりして、活動内容をタイムリーに発信していく。	A	A	A	「交流活動通信」を計5回発行し、ホームページにも掲載することで、保護者、地域、関係機関へ周知することができた。アンケートでは100%の保護者が交流学習の内容等を理解できたと回答した。	地域や他校との交流を通じて普段の学校生活とは違った刺激を受けていることが伝わる。引き続き継続して推進し、地域との結びつきをより強いものにしていく。	学校間交流は引き続き、大泉高校・太高特(肢体グループ)を考えている。オンライン交流も積極的に取り入れたい。宇宙カフェの校外開催も2～3回程度実施したい。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	高等学校の特別支援教育に関わる教師向けに、本校の学校見学会を年間2回以上実施している。	地域支援部 地域支援係	高等学校の教師の授業がない、定期試験の日に設定し、校内の見学及び、特別支援の理解に関する情報交換会を設定する。	B	A	A	情報交換会を兼ねた学校見学会は開催期間に担当者が不在となったため実施することができなかったが、各校へ連絡して状況把握を行い、別日程で電話相談や巡回相談に個別に対応し、助言に当たった。	地域の学校相談や巡回を通してより障害についての理解が深まるとうい。	前年度、開催日の調整が課題だったが、今年度は実施できなかったため、次年度も開催日について参加校側の都合を考慮し日程調整をしたい。
		4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	教務部 教務企画係	保護者アンケートの配布をGSNメール、学年だり等を活用して周知することで回答率を上げ、より多くの保護者から回答を得られるようにする。	C	C	C	GSNメール、学年だり等による周知で回答率を60%以上に押し上げることができた。そのため、周知の徹底は一定の効果があったと考えられるが、それだけでは不十分だった。また、多言語対応によって回答が難しい家庭層の障壁を下げるきっかけにはなったが「アンケートに答える」という行為自体の動機付けには結びついていない可能性がある。	周知するための対応として専用のメールを作るなどの工夫をされていて素晴らしい。紙媒体よりはメール等のほうが回答しやすいと思うので継続してほしい。すべてC評価となっているので、評価が上がるよう検討していただきたい。	回答率向上のための動機付けの強化をするため、単なる周知だけでなく、「なぜ答えるべきか」を家庭に強く認識させられるようにしたい。また、回答負担の軽減も必要ではないかと考える。Google Formsの質問数を削減したり、必須回答項目を絞り込むなど、隙間時間で答えられるようアンケートを簡素化することも検討していきたい。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	学校のいじめ対策への取組を保護者の85%以上が理解している。	生徒指導部 生活指導係	いじめの未然防止・早期発見の取組として、生徒向け教育相談を年間通って実施情報収集する。学期ごとの保護者会等において、いじめの未然防止・早期発見の取り組み状況を保護者に周知する。	A	A	A	90%以上の保護者が教育相談やアンケート、生徒会活動などの取り組みによって、いじめの未然防止や早期発見が推進されていると回答している。生徒会活動「みんなで楽しむ」をより充実させ、今後もいじめの未然防止に注力していく。	ホームページに指針がしっかりと示されていることは「いじめ」に対する対策がされているということが明確で分かりやすい。障害のある子どもたちだからこそいじめ対策の強化をより一層お願いしたい。	学校のいじめ対策への取り組みをPTA総会で説明していた代わりに、年度初めの保護者会で学年主任が行うことに変更した。欠席者のことも考慮し、「学校いじめ防止基本方針(裏面に昨年度の生徒会活動写真)」を資料として配布する。
		全教員が、生徒の実態に合わせて年間指導計画を作成し、生徒の学習状況に合わせて指導内容の見直しや指導方法の改善を行っている。	学習指導部	学習内容の精選と個別の指導計画の振り返りを計3回行う。年間指導計画をもとに学習内容、目標、評価に関する共通理解を図り、指導計画の立案や指導内容の見直し、指導方法の改善等に生かす。	A	A	A	90%以上の教員が学習内容、目標、評価に関する手立て、個別の指導計画の検討会で目標や評価との共通理解を行ったとしている。日々の指導を通して、担任や学年間で指導内容の見直しや改善を図っている。	個に応じた指導が行われていることが参観を通して感じられた。また就業体験実習中、巡回に来られる先生に対して担当以外の生徒の話を聞いても生徒の良さを課題を理解している先生が多いと感じる。忙しい中研修も行ってほしい。引き続き推進を図っていただきたい。	個別の指導計画の評価記入欄において、文章の表現方法や保護者に伝わりやすい表現など、記入方法について研修などで共通理解を計ってほしい。
	各分野に分かれて行うグループ研修や外部講師の研修に全教員が参加し、80%以上の教員が学習指導や生徒指導、進路指導等の改善に繋がったと感じている。	学習指導部 校内研修係	それぞれの教員が研修したい分野に分かれて行うグループ研修を実施し、それぞれの分野についての理解を深めることができた。また、報告会を実施し、他グループにも研修内容を共有することができた。	A	A	A	各教員が学びたい分野を選び、分野ごとに集まって行うグループ研修を計5回実施した。各教員が学びたい分野について、計画や実践、評価、改善を行い、理解を深めることができた。また、報告会を実施し、他グループにも研修内容を共有することができた。	研修制度が充実している。専門分野で活躍している方から学べることは仕事のモチベーションにもつながるのではないかと。学び、共有することで理解を広げてほしい。	研修内容について教員の要望をアンケートで集計し、各教員ができるだけ要望に沿った研修テーマに取り組みようグループ編成を行ってほしい。	
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の85%以上から理解を得ている。	保健保安部	日常的な健康観察・保健指導・体調悪化時対応、また、行事前の健康相談・内科検診等を適切に実施する。保健だより等で保護者・職員に保健に関する情報や学校医からの助言等を提供し、生徒の健康の保持増進に努める。	A	A	A	90%以上の保護者が感染症を含めた健康に関する適切な対応ができていたと回答している。健康観察の徹底や保護者との連携、保健だより等での情報発信により、その場面での疾病やけがに関する適切な対応を早期に行うことができた。感染症対策については、学校医等からの助言やマニュアルに基づいた手洗いや換気等を行うことにより、集団感染を防ぐことができた。また、生徒が自ら教材を作成し、保健委員から発信することができた。	季節に応じた感染症対策や災害啓発が適切に行われており、保護者や生徒が改めて意識を高める良い機会になっている。また生徒本人も感染症対策について興味を持てた。引き続き推進を図っていただきたい。	生徒の健康課題について、学校医や学校薬剤師等に積極的に相談して指導助言を求め、専門家の意見を取り入れながら課題解決に向けて取り組んでいきたい。また、感染症対応について、保護者の認識に温度差が見られたので、保健だよりや通知等を活用して、小まめに発信して周知徹底していきたい。
		7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	保健保安部 安全対策係	様々なケースを想定した避難訓練や研修会(不審者対応、消防設備、合同避難訓練)を実施する。マニュアルや避難経路、避難場所、役割分担を確認、徹底し、流れを職員に周知する。	A	A	A	火災避難訓練、緊急時引渡し訓練、地震避難訓練等、緊急時の対応の訓練を年間3回以上実施した。アンケートでは、安全の確保に関する項目で90%以上の保護者が適切な対応ができていたと回答した。	特に重い障害を持つ生徒の状況に応じた対応が必要になる。年3回の訓練は充実している。実際に想定される避難場所、地域住民の方と協力した訓練ができるとよい。	緊急事態が起きた場合の訓練の実施方法の見直しや、福祉避難所としての働きを市役所などと連携しながら明確にしていく。訓練の実施やマニュアルの見直し等を行い、万が一への備えを整えていく。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	キャリア実習が生徒一人一人の適性や発達段階に応じた実習だと保護者の80%以上が感じている。	進路指導部	生徒・保護者の思いや、取り組むべき課題を実習前に明確にし、学校と家庭とで共通の認識を持って実習に臨むようにする。また、実習後の振り返りでは、成長した点と次への課題を明確にする。	A	A	A	保護者の80%以上が、キャリア実習について生徒一人一人の適正や段階に応じた実習になっていると回答している。また、実習後、各クラスで振り返りを行い、成長した点と次への課題を明確にすることができた。	環境の変化の効果等により本来お持ちの力がより発揮できたり新たな面が知れる良い機会だった。よりご家族が事業所や福祉サービス、障害者雇用のことについて知るきっかけとなる場があっても良いのでは。キャリア実習が卒業後の進路に結びつけられるとうい。	本人・保護者のニーズに対応し、進路先のマッチングを強化していくために、毎年変化する各企業や事業所の受け入れ体制等の情報を今後も継続的に収集し、迅速な情報提供に努める。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	進路指導部	各学年主任と連携を図り、各学年の生徒・保護者のニーズを把握して、関係機関や卒業生保護者に進路講演(講話)を依頼する。	A	A	A	各学年に必要な情報を提供するため、各学年や関係機関と連携を図り、障害福祉サービス事業所による説明会や保護会における進路講演会を計画し、実施することができた。	事業所説明会はとても良い企画だった。商工会議所を巻き込んで企業ともできると良い。進路についての情報提供と相談をこれからも積極的に行っていただきたい。	保護者や関係機関との連携に向けて、校内の連携体制を整えると共に関係機関との連携に向けた具体的な仕組み作りを努める。